

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

学校名	有田町立曲川小学校
1 前年度 評価結果の概要	年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を意識して取り組んできた。その結果、めざす児童像を職員・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送っている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。昨年度は校内研究としてプログラミング教育の県指定を受け、2年目の発表を行った。各教科で、プログラミング的思考ができる児童が増えてきた。志を高める教育の1つとして陶芸教室等地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。心の教育の面では、SCやSSW、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいような環境づくりを充実させてきた。特別支援教育では、児童理解や職員の専門的知識の向上に努めた。職員の働き方改革として、それぞれの役割を明確にして、チームとして効率的に業務ができるよう環境を整えてきた。成果の上った項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し改善に努めていくとともに、心身ともに健康で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

2 学校教育目標	「たくましい子」「みずから学ぶ子」「こころ豊かな子」の育成
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	①命を大切にしたい、健全な心や体づくりの推進 ～たくましい心や体を育てる～ ②自ら学ぶ喜びを味わうことができる、主体的・対話的な学習の推進 ～授業で育てる～ ③豊かな心を育む特別活動の推進 ～認め合い・支え合う心を育てる～
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○若手教員と共に授業力向上に取り組む、1時間1時間を大切にしたい分りやすい授業実践	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85%以上	・基本的な学習スタイルの確立を進め、自ら学ぶ「楽しさ」と「学び方」を低学年の段階から習得させるための取組を実施する。	B	・児童アンケート「学校や家で、進んで勉強していますか」の項目で、肯定的な回答は82.2%であった。 ・教師アンケート「各教科の基礎的・基本的な課題に対する児童の正答率85%以上を達成した」で、肯定的な回答は94.1%、「分りやすい授業の実践」で、肯定的な回答は100%であった。 ・前期市販テストの全校平均は81.4%であった。 ・今後も分りやすい授業の実践や基本的な学習スタイルの習得に向けた取組を継続していく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、Q-Uアンケートで要支援群5%以下にする。	・各学級、道徳の授業参観を年1回以上実施する。 ・特別活動の理論実践研究を全職員が深め、「友だちアンケート」やQ-Uアンケート等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・校内研究や日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意して取り組む。	B	・前期のQ-Uテストの要支援群は3.6%(10名)であった。 ・児童アンケート「命を大切に、思いやりの心をもって生活している」で肯定的な回答は96.6%であった。 ・保護者アンケート「学校では、心の教育について日頃から指導していると思うか」で肯定的な回答は79.1%であった。 ・オープンスクールで道徳の全校授業参観を行った。 ・心のアンケート等からは、友だちを傷つける言動がみられる。 ・今後学校教育全体で心の教育を推進していく。	A	・後期のQ-Uアンケートの要支援群は2.8%(8名)であった。 ・児童アンケート「命を大切に、思いやりの心をもって生活している」で肯定的な回答は97.7%であった。 ・オープンスクール(授業参観)で道徳の授業を全学級で実施した。 ・人権・同和教育推進教員を講師に招き、部活学習の授業実践を行った。	A	・子どもたちは、楽しく学校生活を送っているように思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事業対処において、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日々の観察とともに、「心のアンケート」やQ-Uアンケートを行って児童の実態を把握する。その結果をもとに、個別に面談を行い、いじめ等の早期発見に努める。また、学級の状態やいじめについての研修を行い、児童の把握やいじめのメカニズム等について理解を深める。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行う。	B	・教師アンケートの「いじめ防止や早期発見のための取り組みや事業対処において、組織的対応ができているか」の項目で肯定的な回答は94.1%であった。 ・保護者アンケートの「学校はいじめの早期発見・早期対応をするように努めていると思うか」で、肯定的な回答は81.7%。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行うことができる。 ・今後もいじめに関する研修等を充実していく。	A	・教師アンケートの「いじめ防止や早期発見のための取り組みや事業対処において、組織的対応ができているか」の項目で肯定的な回答は94.1%であった。 ・保護者アンケートの「学校はいじめの早期発見・早期対応をするように努めていると思うか」で、肯定的な回答は80.3%であった。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行うことができた。	A	・「チーム学校」として、不登校児童の対応として学校だけでなく、積極的に専門機関の活用も推進してはどうか。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・キャリア教育を積極的に授業に取り入れ、地域のゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。 ・各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設け、キャリアパスポートを活用する(学期に1回以上)	・キャリア教育を積極的に授業に取り入れ、地域のゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。 ・各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設け、キャリアパスポートを活用する(学期に1回以上)	B	・児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童は92%、「将来の夢や目標を持っている」で肯定的な回答をした児童は86.4%であった。 ・今後も各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設けたり、キャリアパスポートの活用を工夫したりしていく。	A	・児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童は88.9%、「将来の夢や目標を持っている」で肯定的な回答をした児童は84.9%であった。 ・今後も各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間の設定やキャリアパスポートの活用について工夫をしていく。	A
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・安全に子どもたちが登校できるように、子ども見守り隊の方々に支援を依頼し、安全安心な環境づくりへの感謝の気持ちを子どもたちが持てるような場づくりを行う。 ・保護者や地域の方より通学路の情報を収集し、校区安全マップを見直す。 ・各学年の実態に応じて、交通ルールを守ることの大切さを全職員で指導する。	A	・児童の交通事故は0(ゼロ)である。 ・「交通安全やけがの防止等に関して、実践的な指導に取り組んだ」で肯定的な回答をした職員は100%であった。 ・「学校は、子どもたちが安全に登下校したり、生活したりできるよう努めていると思うか」で肯定的な回答をした保護者は85.7%であった。 ・5月には、交通安全教室を実施し、児童に啓発を行った。	A	・児童の交通事故は0(ゼロ)である。 ・「交通安全やけがの防止等に関して、実践的な指導に取り組んだ」で肯定的な回答をした職員は88.2%であった。 ・「学校は、子どもたちが安全に登下校したり、生活したりできるよう努めていると思うか」で肯定的な回答をした保護者は87.2%であった。 ・校区安全マップの見直しをPTAと連携して行っている。	A	・これからも交通事故0(ゼロ)を目指してほしい。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・各学年で計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育授業を年1回以上実施する。	B	・全学年で栄養教諭と連携した食育授業を実施した。 ・児童アンケート「健康に良い食事をしているか」の項目で、肯定的な回答をした児童は、95.9%であった。	A	・教師アンケート「計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、児童の実態に応じた食育の推進に取り組んだ」で肯定的な回答は100%であった。 ・児童アンケート「健康に良い食事をしているか」の項目で、肯定的な回答をした児童は、95.2%であった。	A	・栄養教諭との連携は続けてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・管理職は、教職員の在校等時間の実態を正確に把握し、休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・ICT支援員を積極的に活用し、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。 ・デジタル教材の共有化、管理の徹底を行う。	B	・教師アンケート「時間外在校等時間の上限(月平均45時間以内)を遵守するために、勤務時間を意識した働き方や有効な時間活用ができた。」の項目で、肯定的な回答は76.5%であった。 ・全職員の時間外在校等時間の平均(4月～11月)は、27時間であった。個人差が大きい。 ・今後も業務の効率化を推進していく。	B	・教師アンケート「時間外在校等時間の上限(月平均45時間以内)を遵守するために、勤務時間を意識した働き方や有効な時間活用ができた。」の項目で、肯定的な回答は83.3%であった。 ・全職員の時間外在校等時間の平均(12月～2月)は、17時間であった。個人差が大きい。 ・今後も業務の効率化を推進していく。	B	・PTAでも協力できる分は行ってほしい。
	○会議の開催方法の改善、時間短縮と内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内とする。	・部会での検討を十分に行い、会議での検討内容を精選しておく。 ・職員フォルダに資料を事前に入れ、一読しておくことで協議の時間を確保する。	B	・会議資料はできるだけ電子化し、職員会議等の時間は、終了時刻を設定し、1時間以内にてきている。 ・長期休業中は学校閉庁日や行事をいれない日を設定し、研修等は時間短縮と内容を精選した。	B	・年間を通して、職員会議等の時間は1時間以内にてきている。 ・授業実施時数を見ながら、児童の下校時刻を早めるなど職員の事務処理時間を確保するように努めた。	B	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				B	・教師アンケートで、「研修や気になる子の共通理解・支援会議等を通して、特別支援に関する専門性が向上したか」の項目で、肯定的な回答は94.1%であった。夏季休業中に外部講師を招いて研修を行ったり、特別支援学校に巡回相談を依頼し、支援の在り方を助言してもらったりした。 ・毎週職員連絡会で必要に応じて、特別支援コーディネーターを中心に短時間の研修をおこなっている。	A	・教師アンケートで、「研修や気になる子の共通理解・支援会議等を通して、特別支援に関する専門性が向上したか」の項目で、肯定的な回答は100%であった。引き続き特別支援学校に巡回相談を依頼し、支援の在り方を助言してもらった。また、自主的に特別支援教育に関する研修を受講する職員も複数いた。 ・毎週職員連絡会で必要に応じて、特別支援コーディネーターを中心に短時間の研修を続けた。	A	・今後ともきめ細かい配慮をお願いしたい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	今年度も年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。めざす児童像「たくましい子・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送り、87%が学校を「楽しい・まあまあ楽しい」と感じている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。志を高める教育の1つとして陶芸教室等、地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。学習面では、次年度から算数科を中心に、小中連携して学力向上を図っていく。心の教育の面では、いじめ防止や不登校児童対策として、SCやSSW、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいように場の設定や情報提供等を充実していく。特別支援教育では、特別支援学校(巡回相談)の協力も得て児童理解に努めてきた。職員の働き方改革として、各自の意識高揚を図るとともに、誰もが動きやすい環境を整えていく。成果の上った項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。心身ともに健康で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。
----------------	---